

新春の集い 2月28日(土) 18時から ベルクラシックリアン千歳にて 会費7000円

令和8年1月吉日

千鷲会
会長 佐藤 敏博

「新春の集い」のご案内

謹啓 新年あけましておめでとうございます
穏やかな年明けで会員の皆様方におかれましては、それぞれの願いを込めて新年を迎えられたことと存じます。本年も益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

今年度の会運営は、概ね計画通りに進捗しております。これも偏に会員の皆様のご理解とご協力の賜と改めて深く感謝申し上げます。今後も航空自衛隊や千歳基地に対する支援及び防衛思想の普及、啓蒙活動等により千鷲会が地域社会に貢献できる組織として認知されることを目指して活動していきたいものです。

さて、年度も終盤を迎え会勢の維持、更に一層の親睦を深めるため恒例の「新春の集い」を下記のとおり計画いたしました。新年挨拶、現役時代の思い出、近況報告など会員の親睦と融和また現役隊員との交流を図りたいと存じますので、時節柄何かとご多用の折とは存じますが万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいませようご案内申し上げます。

敬具

記

- 1 日時：令和8年2月28日(土) 18:00~
- 2 会場：ベルクラシック リアン千歳 (☎26-1163)
- 3 会費：7,000円
なお、25日以降のキャンセルは、キャンセル料として100%の会費を後日、徴収します。
- 4 返信：ご出席の方は2月6日(金)までに返信葉書又は、指定のメールアドレス等で返信をお願いします。メールアドレス等で返信された方は、葉書での投函は不要です。通信費削減にご協力をお願いします。
返信専用アドレス→ chishukai.chitose@gmail.com
- 5 連絡先：事業部長 松倉 美加 (090-8898-7663)

空港100年記念動画完成イベント

2025年10月5日午後2時、北ガス文化ホールにて「空港100年記念動画(『空に描く未来』)完成イベント」が開催され、千鷲会からは森田副会長をはじめ7名が参加した。

空史が、着陸場の整備から千歳基地、新千歳空港の開港、さらに共用飛行場の特殊性に至るまで、映像とナレーションによって描かれた。1951年10月26日、日本航空が定期運航を開始し、「もく星」が旧ベースオペレーション前に到着した様子や、当時の飛行場、

旧管制塔、幹部公室(現・広報館)、千歳市街の風景も鮮やかに映し出された。続いて行われた講演では、まず地名「志古津」が「死」や「骨」を連想させることから「千歳」へと改称された経緯が紹介された。さらに、1950年に勃発した朝鮮戦争の影響下、米軍の管理下にあった千歳飛行場と真駒内駐屯地(キャンプ・クロフォード)と

の間の輸送効率向上を目的として整備された、日本初のアスファルト舗装道路「弾丸道路」(国道36号線)についての解説がされた。そのほか、水運に関する大運河構想、千歳科学技術大学付近から新千歳空港周辺にかけて存在する世界一標高の低い中央分水嶺の地形的特徴と、それに沿って敷設された石勝線との関係、さらに千歳基地に駐屯していた米空軍兵士に



完成イベントの状況



加え、オクラホマ州から進駐した米陸軍第45歩兵師団が東千歳駐屯地に展開したことによってもたらされた地域経済への影響、いわゆる「オクラホマ景気」についても言及されるなど、千歳の地理・交通・軍事・経済にわたる多面的な歴史が丁寧に語られた。

『空に描く未来』に対して筆者個人が感じたのは、千歳空港が千歳飛行場の滑走路を利用していた時期の説明がやや簡略であり、共用飛行場における管制業務や運用管理の特殊性も映像に盛り込まれていれば、より意義深い記録動画となったのではないかと感じる点である。

同月22日、空港公園で行われた千歳空港開港99年の献花式に出席した佐藤会長は、山口航空協会の長および横田市長の挨拶について、「両氏の挨拶は異口同音で、先達の努力を称え、それを次世代にどう伝えるかという思いは、千鷲会の理念と重なる」と言及した。また、佐藤会長は「千鷲会だより40号」にて「私たちが営々と行ってきた業務の一端を承知頂きたい」と記しており、地域と基地との架け橋としての千鷲会の意義を再認識させる言葉となっている。

千鷲会サークル活動

登山 山登愛好会は、9月27日(土)に、今年度5回目の登山として、銭函インターチェンジを経由し、桂岡登山口から907mの春香山に登った。
今回は、会員3名と空自OBの方1名、札幌自衛隊家族会山歩部の女性2名の、合計6名で、晴天無風の登山日和の中、黄色く色づき始めた山の景色を眺めつつ、秋の登山を楽しんだ。



ゴルフ 千鷲会ゴルフサークル「千鷲球会」は、10月19日(日)に「ちとせインターゴルフクラブ」で今年度最終11月例会を開催し、基地司令を含む現役隊員6名と家族会員を合わせた24名が参加して、快晴のもとダブルペリア方式(ほぼ運しだい?)によるコンペを楽しんだ。
結果として、強い運を味方につけた村田会員が見事優勝を飾った。



階級等の呼称を国際標準へ(1佐を大佐など)

2025年11月13日、木原稔官房長官は記者会見で、自衛官の階級呼称を国際標準に改める方向で検討を進める方針を正式に表明した。自民党と日本維新の会の連立合意書に「2026年度中に実行」と明記されたことを踏まえ、「自衛隊員が誇りを持って任務に臨める環境を整える必要がある」と強調した。
幹部の階級呼称変更は「大佐」「大尉」など国際標準化の方向で進められており、法改正が必要となる。提出時期や施行時期は未定だが、2026年度中の改正案提出が検討されている。

千鷲会会員状況

2025年11月15日現在

正会員	325名
賛助会員(団体)	16社
賛助会員(個人)	26名
新入正会員(敬称省略)	
荒船 真澄(201SQ)	
新入賛助会員(敬称省略)	
長尾 睦(幸福)	
仲本 宗則(沖繩県)	
物故会員(敬称省略)	
板本 脩(88歳 緑町)	
岩崎 光子(73歳 春日町)	
真下 純夫(88歳 幸町)	